

## 中学校第二学年英語科学習指導案

期 日：令和五年九月十二日  
 時 間：第六校時  
 対 象：第二学年五組三十六名  
 学校：  
 授業者：

### 1 単元（題材）名

「 New Horizon2 Unit4 Home stay in the United States Read and Think 2 」

### 2 単元（題材）の目標

- (1) 日米の生活習慣や文化の違いを知り、共に暮らすヒントを考えるために事実や書き手の気持ちを整理して体験談の概要を捉えたり、解決策を考えて伝えたりすることができる。
- (2) 習慣やマナー（しなければならないこと have to, must,）について訪ねたり伝えたりすることができる。

### 3 単元（題材）の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	『知識』 have to、助動詞 must、動名詞の意味を理解している 『技能』 have to、助動詞 must などの理解をもとにしなければならないことや決まり事についての対話を聞き取ることができる。	どのような行動をすべきか知るために、しなければならないことや決まりごとについて話される対話の概要を捉えている。	どのような行動をすべきか知るために、しなければならないことや決まりごとについて話される対話の概要を捉えようとしている。
読むこと	『知識』 have to、助動詞 must、動名詞の形、意味を理解している。 『技能』 自分の周りの事象に対して上記の知識を用いてしなければならないことや決まりごと、教科書にて記載されている文章を読み取り、正しく理解できる。	日本とホームステイ先のアメリカの文化の違いをしり、共に暮らすためのヒントを探るために両者の気持ちを整理してホームステイ体験の概要を捉えている。	日本とホームステイ先のアメリカの文化の違いをしり、共に暮らすためのヒントを探るために両者の気持ちを整理してホームステイ体験の概要を捉えようとしている。
話すこと 【対話】	『知識』 have to、助動詞 must、動名詞の形、意味、用法を理解している。 『技能』 自分の周りの事象に対して上記の知識を用いてしなければならないことや決まりごと、教科書にて記載されている文	ハウスルールや行動を知るために自分のスケジュールとやらなければならないことを伝え合っている。	ハウスルールや行動を知るために自分のスケジュールとやらなければならないことを伝え合おうとしている。

	章を読み取り、正しく伝え合うことができる。		
話すこと 【発表】	『知識』 have to、助動詞 must、動名詞の形、意味、用法を理解している。 『技能』 自分の周りの事象に対して上記の知識を用いてしなければならないことや決まりごとを話すことができる。	ハウスルールや行動を知るために自分のスケジュールとやらなければならないことを話している。	ハウスルールや行動を知るために自分のスケジュールとやらなければならないことを話そうとしている。
書くこと	『知識』 have to、助動詞 must、動名詞の形、意味、用法を理解している。 『技能』 自分の周りの事象に対して上記の知識を用いてしなければならないことや決まりごと、それに関係するするアドバイスを書くことができる。	日本に来る予定の外国人に日本のマナーやルールを知ってもらうために簡易的な教科書の表現を用いて書いている。	日本に来る予定の外国人に日本のマナーやルールを知ってもらうために簡易的な教科書の表現を用いて書公としている。

#### 4 指導観

##### (1)教材観

本単元では海斗がアメリカにホームステイをし、ホームステイ先のルールに戸惑う部分につながる。また帰国後サマースクールのクラスメイトであるしんとなみがホームステイ先で感じた日本との違いについて述べる場面へと展開される。しんはシャワーの時間、なみは食事の量についての日本との違いに触れている。パート4では海斗が実際にホームステイで体験した出来事である言葉遊びについての話をしている。ここでの言語材料は動名詞である。前時、動名詞の文法説明は終えているので定着しているかを確認するための文章が盛り込まれている。動名詞を使って表現の幅が広がり、英語で伝えたい事を伝える手立てとなるだろう。また英語の文章の長さがUnit4のpart1に比べて二倍程度となっているので、心してかかりたい。

次に帯活動だが比較的ポップな洋楽を織り交ぜて一気に引き込もうと思う。Owl City 『good time』という曲を流すのだがポップで聴きやすく even という高校内容を含有しているものの、はっきりと don't have to が発音されているのでこちらにしようと思う。また簡単な意味理解では歌詞であるので飛躍はあるものの、元々の必要ないという意味を残したまま訳することができると思う。英語を身近に感じる大きな一歩となることができれば嬉しく思う。

##### (2)生徒観

の英語のレベル感や英語を正しく扱える生徒とそうでない生徒が一定数いる事を踏まえて授業展開をしたい。並び替えのテストの平均点や生徒の所感をみると主語や動詞が理解できていない生徒から暗記はしているが形を理解できていない生徒などまちまちであった。have to なども後ろの動詞が原型である事を理解出来ていないことが判明した。しかし読み仮名をカタカナでふったり努力する生徒がいたり、意欲的ではある。発音も声は小さいが、前を向かせると声が大きくなる。恥ずかしいのか音声のレコーディングも嫌がる生徒が多い部分もある。また本単元では長めの文章であるが故に気持ちが切れてしまう危険性がある。躓きそうなポイントとしては接続詞が多く文章の展開についていけないかもしれないという点である。また新出単語が多く発音に追いつけない生徒がいる可能性もある。ペアワークや隣の席の生徒に答えを聞くことを許可し、聞き合う

流れを作ってやり取りをさせることでジェスチャーなどを用いても伝え合うという事を理想とする。本文の内容を理解し使いこなすには少し時間を要すると考える。

(3)指導観

今回の単元では帯活動にて曲を導入することで英語への壁をなくし、身近に思わせることと共に、本文をたどしくよむことができることを目標としている。生徒達には必要以上の情報を与えることはせず、一つ一つ丁寧に段階を踏ませたい。またペアワークなど音読練習の中で6回以上、あわよくば10回を目標にして読ませたいと思う。発音ができるようになればその音を聞き取ることができるようになると考えているので、正しい発音に限りなく近い音を聴かせることに注力し、指導していきたい。また、ペアワークの中で動名詞を使った文章を最低作ることができるように黒板に finish practice enjoy を書き、この単語を使って動名詞の文章を作らせて発表させたい。発表の際には意味も合わせて発表させることで生徒の理解を深めることを意識して指導したい。

5 本時 (全9時間中の8時間目)

(1) 本時の目標

Unit 4(4)の内容を理解し正しい発音で音読することができる。

(2)本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■生徒の予想される反応
導入 (15分)	<p>○挨拶 曜日、日付、天気、スケジュールの確認</p> <p>○English Song ・ Owl City 『Good Time』 ・ have to 聞き取り ・ 曲を用いて進出表現を身近に感じさせる</p> <p>○前回のおさらい 動詞に ing をつけることで名詞化</p>	<p>・ 歌詞の意味説明 ・ 歌詞ということもあり意味が飛躍するので段々と近づける感じで ・ 時間見てサビだけに ・ スムーズに振り返りに導入 ・ おさらいでピンときてない生徒をチェック ・ 表情、食いつきに机間巡視で対応</p>	<p>・ 自信のない声での返答</p> <p>・ 食いつきは良いはず</p> <p>・ 曲聴く時間調整</p> <p>・ 洋楽他にも聞きたい</p>

展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・動名詞を使った文</li> <li>・動名詞をとる動詞を掲示してそれを用いた文</li> <li>・発表（出来ている事を見極める）</li> </ul> </li> <li>○音読練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標の確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動名詞を使って文を作る形とその意味まで理解させる</li> <li>・昨日何が楽しかったか、何を終わらせたか enjoyed と yesterday 、 finished と yesterday A B に列を分けて時間を区切って実施</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要だけ確認</li> <li>・練習前にレコーディング</li> <li>・本文一回聞く</li> <li>・Q&amp;A T or F 問題を解かせる</li> <li>・指導者に続いて読ませる (2回)</li> <li>・ペア読み</li> <li>・Read&amp;Look up (1回)</li> <li>・シャドーウィング (2回)</li> <li>○レコーディング <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートにてレコーディング</li> </ul> </li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>(本時の目標)</p> <p>Unit 4(4)の内容を理解し正しい発音で音読することができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポ良く進むよう簡単にかつ内容を網羅</li> <li>・場面、状況確認</li> <li>・練習前と後の比較の為</li> <li>・音読に内容理解を深める</li> <li>・見回り</li> <li>・つまりそうなら即座に助言</li> <li>・発音ははっきりとする</li> <li>・読み合い、わからない発音は隣のペアに聞いてもよしとする</li> <li>・教科書を発音の瞬間見ないように指導</li> <li>・時間見ながら読ませる</li> <li>・忘れた生徒も発音練習として読ませる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なんとなくわかる状態</li> <li>・ほぼできない</li> <li>・寝る生徒や聞いていない生徒</li> <li>・全員ここで取り戻せる</li> <li>・内容理解に努める</li> <li>・声は小さいが読んでくれる</li> <li>・声が大きくなり、発音を知る</li> <li>・顔が上がることで声が届きやすくなる</li> <li>・通常のスピードについて来られるか来られないかの狭間</li> </ul>

まとめ (5分)	○振り返り ・練習前と後を比較 ・動画視聴	・音が良くなっている事を実感 ・途中に挟まれるであろう問題を解かせる	・確実に言えるようになってい る ・たった50分音読練習を行っただけでこんなに伸びる ・生徒達の可能性を示唆前向きにさせる
-------------	-----------------------------	---------------------------------------	--

(3)板書計画

Today's plan

- ① Today's Information
- ② English song
- ③ 1477-7
- ④ 音読練習
- ⑤ レコ-ディング
- ⑥ まとめ

本時の  
目標 Unit 4(4)の内容を理解し正しい発音で音読できる。

I enjoyed \_\_\_\_\_ yesterday

I finished \_\_\_\_\_ yesterday

↳ 単語

Tuesday  
September  
12<sup>th</sup>  
Weather